

第5期北見市障がい福祉計画の策定に関する意見交換会 議事録（要旨）

●日 時：平成29年9月6日(水) 午後2時00分～3時30分

●会 場：常呂総合支所 2階 第1会議室

●参加者： 【参加者】 1人

【策定委員】 1人

【事務局】 4人

意見交換会で出された地域の課題、障がい当事者や関係者の意見等

★参加者★

・常呂での活動の状況は、社協で障がい者2～3名が給食の牛乳パックを計る活動しており、1回に370円程度で売却している。若いボランティアの方が手伝っている。障がいサークルのすずらん同好会（精神・知的）が社協で指定管理を受けている「いこいの家」の清掃を実施している。

★参加者★

・年齢がばらけているので、家族会もできない。サラリーマンは北見自治区に転居する場合もあるので、農業漁業者などしか残らないため、なかなかまとまった活動にならない。

★事務局★

・幼少期に障がいを見つけ、保護者の理解も得たうえで支援につなげるかが大切。

★参加者★

・保育士の確保が困難で、臨時職員には網走から通っている人もいる。

★参加者★

・ヘルパーに当事者の意見を聞いてもらったところ、今は親が近くにいるが、金銭管理を含めた将来の暮らしが不安との意見があった。

★事務局★

・常呂では障がい者の人数が少ないので採算が合わない。移動手段の確保が課題となる。当事者ニーズを土台に、常呂の特殊事情を考慮した対策が必要。